

2021年度 事業報告

法人の名称 特定非営利活動法人 横浜依存症回復擁護ネットワーク

1 事業の成果

健康な社会づくりに寄与することを旨し、依存症者、家族、一般市民に対して、回復の擁護と回復の支援を提供する活動を展開することができた

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	内容	日時	場所	従事者人員	受益対象者 範囲・人数	事業費 (円)
①依存症者、家族に対する面談、相談	あらゆる依存症当事者、家族、支援者が集うオールリカバリーミーティングを対面形式で実施した	週1回	横浜市内	3人	依存症当事者、家族、支援者ら、各回8～10人	0
	あらゆる依存症当事者、家族、支援者が集うオールリカバリーミーティングをオンライン形式でも実施した	月2回	配信：横浜市内等、参加：オンライン	3人	依存症当事者、家族、支援者ら、各回8～10人	0
	依存症・回復者本人や家族が参加するアディクション家族教室・依存症相談・育児学級等において、依存症・回復者本人や家族に対する相談を実施した。	各場所にてそれぞれ月1回	横浜市内3区(旭区・保土ヶ谷区・瀬谷区)、東京都大田区 葦谷・羽田地域庁舎、横須賀市・久里浜医療センター	1人	当該地域内に居住する依存症・回復者本人、家族等。横浜市内3区は各回4～12人、東京都大田区 葦谷・羽田地域庁舎は各回8～10人。久里浜医療センターについては、入院中・通院中の依存症・回復者本人、家族等。各回6～10人	0
②講習会・セミナー開催に関する事業	リカバリーコーチ制度の導入に向け、コネチカット州GCARのリカバリーコーチ研修の関連文書の翻訳を続けた	通年	事務所等	1人		0
③障害者総合支援法に基づく計画相談、自立生活援助事業	(社福)幼年保護会からの依頼により、職員が、障害者総合支援法に基づく計画相談に対応した。	通年	主に横浜市内にある受益者の自宅や通所先	1人		0
④地域活動支援センターの運営	依存症で苦しむ仲間の回復支援の事業として、地域活動支援センター「横浜リカバリーコミュニティ(YRC)」を運営した	週6日、年間290日	YRC	職員3人+リカバリーサポーター10余名	利用登録者29名、利用定員20名、1日15人程度が利用	18,502,023
⑤地域の団体、施設との交流促進	横浜市こころの相談センターが主催する連絡会等へ参加した	数回	横浜市内	3人		0
	NPO法人横浜市精神障害者地域生活支援連合会、アディクション企画委員会が企画する研修会等へ参加した	数回	横浜市内	3人		0
	RDP横浜主催、依存症家族教育プログラムに参加した	月1回	横浜市内	1人		0
⑥広報事業	広報誌「Y-ARAN」を発行した	年4回	横浜市内等に配布	1人	会員、当事者、家族、支援者および病院、福祉施設、行政機関等、各回約600部	0 (別途、管理費計上)
	ホームページを開設し、情報発信を始めた	通年	事務所等	2人	一般市民・当事者・回復者 多数	0 (別途、管理費計上)
	コロナ禍、オンライン形式、東京との合同開催の形で、リカバリーバレード(回復の祭典)in東京・横浜2021の開催に積極的に関わった。事務局も担った	本番：11月●日、プレ企画：●月●日、●月●日	配信拠点：横浜市内、参加：オンライン	4人+理事、リカバリーサポーター	一般市民・当事者・回復者 多数	0
	「多様な回復」と「横浜を依存症から回復しやすいまちにしたい」という理念・目標を発信するポッドキャスト「Y-ARANラジオ」の開設・配信に向け、準備を始めた	2021年●月～	横浜市内等に配布	1人+リカバリーサポーター		0

その他

総会(7月15日)、理事会(計5回)を開催し、ガバナンス強化のため、会計事務所、社会保険事務所と契約を結んだ。YRCの利用者のうち、居所を求める数名は、共同生活の拠点となる「滝頭ハウス」を利用した。